

北海道胆振東部地震等への派遣状況等の災害対策

医師の負担軽減に向けた取組み調査結果

病院敷地内薬局の設置状況調査結果について

平成30年10月5日（金）、平成30年度第3回常置委員会が東京都中央区八重洲で開催されました。定例記者会見ではこの中で話し合われた議題・報告事項等の中から、北海道胆振東部地震等への派遣状況等の災害対策、医師の負担軽減に向けた取組み調査結果、病院敷地内薬局の設置状況調査結果などについてご報告させていただきました。それぞれのテーマに関する発表内容をご紹介します。

まず冒頭で山本修一常置委員長・千葉大学附属病院長より7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振（いぶり）東部地震の被害にあわれた国民の皆様へのお見舞いを申し上げます。

北海道胆振東部地震等への派遣状況等の災害対策について

国立大学附属病院は、地域の災害拠点病院としての機能に加えて、災害時の危機対応としてDMAT(*)派遣や、被災地域の医療支援として医師等の派遣を行ってまいりました。今回の災害においても、各国立大学附属病院から医師等の派遣が行われ、西日本豪雨では390名、北海道胆振東部地震では96名の医師等が現地で活動を行いました。今後も国立大学附属病院長会議としてDMAT、消防、警察、自衛隊などの関係機関と連携を図りながら、迅速、適切に災害時の対応を進めてまいります。

DMAT(*)とは…Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チームとは、専門的な訓練を受けた医師・看護師等からなり、災害発生直後から活動できる機動性を備えた医療チームのこと。

医師の負担軽減に向けた取組み調査結果について

現在、厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」において検討中ですが、各国立大学附属病院においても「医師の負担軽減」の一環として、「医師の労働時間短縮に向けた取組」を検討し、導入を進めております。その最新の現状を把握するため、国立大学附属病院長会議では、各大学の「医師の労働時間短縮に向けた取組」について、アンケートを実施し、45大学病院中39大学病院より回答が集まりました。一例として千葉大学医学部附属病院における「患者さんへの説明等の対応」を診療時間内に行うことについての状況についてご紹介すると、概ね良好に診療時間内に実施されるようになりつつあり、患者さんの反応も良好であり、ご理解を頂いているようです。「当直明け勤務負担の緩和」、「勤務

間インターバルや完全休日」、「複数主治医制」等について実施できている国立大学病院は4割程度、「勤務間インターバルや完全休日」については1割に留まっています。国立大学附属病院長会議としては、手厚い医師の配置が必要となる内容であり、医師の確保には人件費の問題もあるため、引き続き要望してまいります。

病院敷地内薬局の設置状況調査結果について

平成28年の規制見直し以前は、医薬分業を進める観点から、医療機関と薬局は、「一体的な経営」だけでなく、「一体的な構造」も禁止し、公道等を介さずに専用通路等により患者が行き来する形態であってはならないとしていましたが、患者さんの利便性を考慮し、薬局の経営の独立性確保を前提に、敷地内に併設する「門内薬局」を認めることとなりました。国立大学附属病院長会議では、各大学での設置状況について把握するため、アンケート調査を実施しました。その結果、現在4大学で設置されており、敷地内薬局を利用している患者さんの声について調査した結果、「利用者にとっては便利」、「体調が悪いときや天気が悪いときなど、近いほうがありがたい」といったご意見がありました。

.....

国立大学附属病院長会議とは…

国立大学附属病院長会議は、大学附属病院、医学部附属病院（医学部・歯学部附属病院を含む）、歯学部附属病院、附置研究所附属病院の42大学45病院が会員として参加している組織です。

.....